

第2回 神奈川県放射線友の会

「講演と音楽の集い」

福田 利雄

● はじめに

令和6年師走に入った12月1日(日)、神奈川県放射線友の会主催の「講演と音楽の集い」が戸塚駅近くの男女共同参画センター横浜フォーラム・ホールにて開催された。このイベントは、原子力発電所から出る高レベル放射性廃棄物の地層処分の理解を目的に学習活動して来た本会が、原子力発電環境整備機構(NUMO)学習支援事業に応募し支援を受ける事になり開催となった。講演は東海大学工学部教授若杉圭一郎先生、令和5年12月に開催した市民公開講演会で講演して頂きとても分かりやすい説明と好評価であった先生で再度お願いしたのである。音楽の集いは本会副会長小嶋さんが所属する「音楽の杜管弦楽団」による癒しの音楽会である。平成26年(2014年)に「第1回講演と音楽の集い」を横浜みなとみらい小ホールにて開催され、音楽会が開催されている。当時の演奏楽団員は13名と少なかったが、今回は62名フルオーケストラによる迫力ある素晴らしい演奏会であった。

● 広報活動

「講演と音楽の集い」開催が決定し、広報活動に必要なポスター、プログラム、本会が企画実施してきた地層処分学習活動報告書等の作成を役員会で検討し広報に努めた。作成した広報資料を日本原子力文化財団(JAERO)に校正編集を依頼したところ、素晴らしい出来上りの見映えのあるポスター、プログラムになった。



本会の地層処分学習活動報告書も分かりやすく、インパクトのある素晴らしい4頁のリフレットに編集して頂き300部印刷して頂いた。内容は、

- ① 放射性廃棄物の処分方法
- ② 青森六ヶ所村見学
- ③ 幌延地層センター見学
- ④ 東海第二発電所見学
- ⑤ 東濃地科学センター見学

受付時、アンケート、広報資料含め6点配布された。

◎ 第一部 講演

12:00 橋副会長の司会進行で、最初に中村会長より挨拶があり、次いで本日の講師である東海大学工学部教授若杉圭一郎先生の地層処分に関する講演が開始された。

● 知っていますか! 「地層処分」・

一般市民の多くの方に原子力発電の使用済燃料の処分について知って頂くため、我が国の高レベル放射性廃棄物の地層処分の概況について講演して頂いた。講演資料として、パワポ画像29枚(A4用紙裏表8枚)受付時配布された。講演内容は以下の通りであった。

- ① 我が国のエネルギー事情
- ② 高レベル放射性廃棄物とは?
- ③ 地層処分とは?
- ④ 我が国の地層処分事業の現状
- ⑤ まとめ



若杉先生は話上手、前回講演会と同様とてもわかりやすく、ていねいに説明して頂いた。地層処分事業(公募方式)、処分地選定が難しいこと改めて認識できた。国民の理解、処分地の地域住民への安心や納得が得られる取り組みが地層処分事業を進める事で重要である(トランスサイエンスの問題)と強調し説明されていた。

□我が国の地層処分計画と処分地選定の経緯

我が国の地層処分計画と処分地選定の経緯(1/2)

- 1962年:原子力委員会報告書「放射性廃棄物の処分方法の検討開始」
- 1966年:原子力発電の利用開始
- 1976年:原子力委員会「当面地層処分に重点を置いて検討」=>地層処分研究開始
- 1992年:国立研究機関(原子力機構)が地層処分研究の成果を取りまとめ(第1次取りまとめ)
- 1999年:原子力機構による第2次取りまとめ=>我が国でも安全な地層処分の実施は技術的に可能
- 2000年:特定放射性廃棄物の最終処分に関する法律制定:実施主体として原子力発電環境整備機構(NUMO)を設立
- 2002年:NUMOが処分地選定の公募を開始

我が国の地層処分計画と処分地選定の経緯(2/2)

- 2007年:高知県東洋町が応募
 - > 高知県・徳島県の両知事が国やNUMOに文獻調査への反対を申し入れ
 - > 反対派が町長の解職請求(リコール)の手続きを開始
 - > 町長が辞職。「選挙で住民の信を問う」=>賛成派の前町長と反対派の町長候補の一騎打ち
 - > 反対派の候補が当選=>応募の取り下げ
- 2015年:最終処分に関する基本方針改定(国からの申し入れ方式を追加)
- 2017年:国が科学的特性マップを公開(全国を対象として処分地としての適合性を客観的に整理)
- 2020年:北海道寿都町、神奈川内村で文獻調査が開始
- 2024年:佐賀県玄海町も文獻調査に応募

11/22 NUMOが文獻調査報告書を寿都町、神奈川内村へ提出。自治体の首長・知事が概要調査へ進むかどうかを判断

(若杉先生講演資料より)



講演終了後、会場より2名の方が質問された。若杉先生、ていねいに画像を再表示して質問に答えて頂いたのである。戸塚地区のタウンニュースにも開催案内が掲載されたので

一般の方も多く来てくれた様に思えた。

● 神奈川放友会「地層処分」学習活動の報告

神奈川放友会長谷川武名誉会長より、前述広報活動の項で紹介した地層処分学習活動のリフレットを手にし、2019、2021、2023、2024年に見学した4カ所についての学習活動の成果について簡単に報告された。

● 「知爽の人」取材を受ける

原子力文化財団 (JAERO) の「知爽の人」取材チームの方々が今回の「講演と音楽の集い」動画で記録してくれた。休憩時間、中村豊会長、長谷川武名誉会長へのインタビューも行われた。



日本原子力文化財団は、高レベル放射性廃棄物の地層処分事業への関心を全国に広めるべく様々な活動を行う人たちの声を紹介した特設サイト「知爽の人」



を設け、順次動画コンテンツを公開している。公開される動画楽しみである。

◎ 第二部 癒しの音楽・・・

13：20～ 音楽の杜管弦楽団の演奏会が始まった。指揮者、楽団員、黒の正装、総勢62名を超える編成でのフルオーケストラで迫力ある音楽を聴くことが出来た。



今回の「講演と音楽の集い」の会場での受付を楽団員の家族、お子さん達も手伝ってくれた。和やかな雰囲気での受付、参加者も笑顔で会場に入場していた。

音楽の杜管弦楽団は15年前に「弦楽アンサンブル音楽の杜」として活動をはじめたとのことです。今回の音楽の集いが決定してから休日、日曜日に練習を重ねて来たようです。プロの楽団に負けない素晴らしい演奏であった。



管弦楽団の指揮者は、野武 重忠氏、83歳、トロンボン奏者として活躍し、アマチュアオーケストラや吹奏楽団の指揮・指導に当たっている。83歳とは思えない立派な指揮であった。先生の指揮のもと魅力的な曲の演奏を楽しませていただきました。

● 本日の演奏曲目は・・・

- ① チャイコフスキー くるみ割り人形組曲
- ② ホルスト 吹奏樂のための第一組曲
- ③ ドヴォルザーク 交響曲第9番 (新世界より)



アンコール曲含め、約2時間素晴らしい演奏が続いた。何度か耳にした曲目が演奏されると懐かしく聞き入ってしまった。最後の演奏が終了し、可愛いお子さんから指揮者とコンサートミストレスに花束が渡された。

● 一般参加者へ「知爽の人」取材を行う

15：10「講演と音楽の集い」終了後、2階出口付近で一般参加者への取材が行われていた。地層処分に関して一般の方には難しい内容と思われたが・・・家族で来られていた様で、お母さん、息子さん夫婦、そして大学生の兄妹さん



への取材インタビューであった。感想の言葉は良く聞き取れなかった。後日、動画コンテンツが公開されるのを楽しみにしている。

● 講演と音楽の集い・・・終えて

15：30、ホール会場にて音楽の杜管弦楽団の世話人である小嶋副会長の進行で閉会のセレモニーが行われた。楽団員の方はほとんど私服に着替えていた。最初に神奈川放友会中村豊会長、今回の放友会企画「講演と音楽の集い」の開催に多大な支援を頂いた日本原子力文化財団 (JAERO) の有馬智洋部長、そして最後に指揮者である野武重忠さんが感謝の言葉を述べた。舞台の上で楽団員全員での記念撮影を撮り解散となった。

● 16:00 横浜フォーラム会場の放友会控え室にて、

実行役員会が開催され、早瀬総務理事より、今回の「講演と音楽の集い」参加者219名であったとの報告がされた。役員の皆様本当にご苦労様でした。

